

## 第十二章 應用各論(七)

### 正義

正義博愛とは——權利義務最も重んずべし——文明卑ければ義務思想なし——邦人の團體生活上の欠點——政治上の大流弊及び其主因——正義心の結晶たる文豪スコット——スコットを生ずる社會は貴むべし。

權利義務は重んずべし

社會的生活を爲すには、人々各々他人の幸福利益を害しないやう、又た出来るだけ他人の幸福利益を進めるやうななければならぬ。其の害しないやうすることが正義で、進めるやうすることが博愛である。さて如何にすれば他人の福利を害しないで、寧ろ之を進めて行くことが出来やうか。世の中のことは極めて複雑であるから、一々の場合に當つて突差の間に其の方法を考へ出すことは、逆も出来ない。此所にも又た研究が要る。先づ正義から陳べやう。

國には各々國法といふもの、習慣といふものがあつて豫め種々の場合に就て吾々の心得を示して居る。他人に對して守らねばならぬのが義務で、他人に對して自分が主張して可いのが權利である。而して我々は世の中の一切の人に對して種々様々な權利義務の關係に立つて居る。社會的生活の意義を體しながら、此の權利義務の關係をキチヨウメンに果して行くのが正義である。權利義務と云へば、日本には新しい言葉で、兎角世人は不穩當な、不道德な人を權利義務に入釜しい人といふ。抑も此れが間違である。日本人は古來當人當人の心の中で、此れが可いことだと思ふことは實行する人ばかりを道德堅固の人といふが、元來自分が可いと思つてるところが、必らずしも他人や社會が可いと思ふことでない。支那傳來の義者宜也など、人々が所謂腹藝で世を渡つた日には、一人が可い積で行つてゐることを、他の人は悪いと考へぬ氣遣はない。腹藝は結構のやうなものだが、誤解を惹き起し易いことは、前きに嫁と姑との間に有り

得ると言つたが、朋友隣人の間でも随分あることとて、況してや廣い世間の事となれば尙更のことである。此の點で我々は、よく正義とは腹藝以上に世の中に公に定めてある法則に従ふことといふ意味を知らねばならぬ。獨逸語にはゲレヒチツヒカイト *Gerechtigkeit* とヨムリイグカイト *Billigkeit* といふ區別がキツバリ付いて居る。ゲレヒチツヒカイトは一人の私で判断して可いと思ふ斗でなく、必らず公の法則規則で定めてある可いことに従ふ徳の名で即ち正義である。ビルリイグカイトは唯だ人々各自が判断して可いと思ふことに従ふ徳の名で、即ち單に「宜」といふべきである。私の思ふには古來我が邦人の間では正義といふものを兎角「宜」と思ひ違へる弊がある。其れて法則規則を楯に取る權利義務を賤しめるのかも知れぬ。腹藝斗りて世の中が渡れぬことが事實なら、吾々は、どうしても權利義務を知り權利義務を尊重しなければならぬ。教育勅語に「國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ」とあるは即ち是れである。

此所に某鐵道會社があつて正當に鐵道の敷設權を得て居る。線路に當つて居る沿道の人民から、正當の代價で地所を買ひ上げる。會社には買ひ上げの權利がある。人民には讓與の義務がある。然るに或る人民が其の宅地田畑を買ひ上げられる時、我が家は父子幾代此所に住うて居る、祖先の靈に對しても之を他へ賣り渡すことはならぬ、例令黄金の山を築くとも承知しないなどと力味返る者があつたとする。會社は、大抵のことなら沿道人民の福利を顧慮すべきであるが、併し氣の毒ながら此の人の祖先傳來の土地を買收せぬ限り、其の事業を經營して豫期の如く公衆の便利を足すことが出来ぬとあれば、公力を假りても其の權利を主張せなければならぬ、道徳上から考へても其れて可いのである。といふは鐵道會社の事業は決して一私のことでない、大に公衆の利便に關して居る。政府が一旦之を許可した以上は、社會國家が公の立脚地から見て之を是認して居る。一人二人の私情私利にかまけて中止すべき性質のものでない。それ故斯様の場合

には、假令個人に何れ程貴重の土地家屋であるにせよ、公衆の爲めに犠牲となるべき義務がある。權利や義務は決して一私の是非で定まるのではない、極めて崇嚴の意味がある。軍人は義務の爲には一命を棄てるを辭しない。是は君國の恩を思ふからである。吾々一同にも亦之と同一の義務がある。吾々は君國の恩を思つて君國の爲めに財産所有の一部を失ふことが出来ないといふ不條理があつてはならぬ。もし出来ぬとあれば是非共させる、又させて可い理由が此所にある。權利義務思想を不道德のやうに考へるは、畢竟道德思想の幼稚の爲めといふ外はない。

規律の實行

獨逸の大哲學者カントは最も力強く義務を説いた『義務は義務の爲めに』行へと云つた。義務は其れ程崇嚴なものである。法律上の義務は直に道德上の義務とも云へないが、先づ概して言へば法律の命じた所規則約定で定めた所といふものは最も嚴格に實行せねばならぬ、此の思想のない國民ほど未開野蠻なものである。朝鮮に旅行した人の話に彼の國民は殆んど

約束といふものを解しない。譬へば此れ此れの荷物を持つて何處其處まで行つて賃錢幾許と定めて出立しても、人足共は途中で疲れてもするか、又は熱くてもなると、主人には一向構なしにサッサと木蔭に休んだり、又は水を溶びたり、場合によつてはア、厭になつたと荷物を置き去りにして、イト自分の宅へ戻つて仕舞ふ。特に驚くのは、其れて相濟まぬとも何とも言はないで全く平氣で居るといふ。外國人が見ての感想や解釋には往々飛んだ間違が出来るものだから、朝鮮人が果して此點に於て良心を缺いて居るか居ないかは別として、其の正義心の低い度合は推し測られる。今日本人は著しく正義に富んで居るとは最も吾々の誇とすべき所で、武士の如きは古來『武士に二言なし』とか、『一言金鐵の如し』とか、遺憾なく此の徳を發揮して居る。が一般から云うて果して世界の先進國と比して遜色がなからうか。例へば法律はよく字通りに行はれて居るであらうか、會社學校其他諸團體の規則規約はよく嚴重に行はれて居るであらうか。猶又個人間の

契約履行に就ても確實と云へるであらうか。英國邊ではロンドン市中肩磨穀撃の雑沓場裏でも、巡査の一本の指の指す所に従つて、何んな大官富豪でも、何んな偉人豪傑でも、キチンと行動して、其れこそ一糸亂れず整々肅々何等の混雜も起さないといふとである。比較的下等社會である所の職工共が、ストライキをするといふ時には、幾萬といふ労働者が公闘指して詰め寄せる演説もある議決もあるが、言はゞ此の無智烏合の大衆も、其の進退掛引は一に指揮官の命令次第で、容易に亂暴狼藉に涉るやうなどはないといふとである。此の點で彼れ等は決して無智でないどころか、甚だ賢い。彼れ等は眞に社會的生活は一日も法則なしに暮らすとの出来ぬことを知つて居る。彼れ等は心の眞ッ只中から法則を愛して居る、而して此うすることが自由の生活を樂しみ得る唯一の道であることを知つて居る。英國は世界中最も自由な國だと言はれて居るが、其の自由は一面に於て極めて嚴格な規律服従を愛する心から出て居る、即ち正義心の結果である。彼の

情實主義打  
破すべし

ネルソンのトラファルガー海戰の折掲げた信號が、最もよく其の國民性を言ひ表はして居ることは内外人の共に認めて居る所で、實に彼れ等を支配する根本思想は名譽でもなく富でもない『英國は各人が其義務を盡さんことを期待する』のである。其れが爲めにモンテスキューをして『英國は世界中最も自由なる國なり。英國に於ては人ありて其の頭上の毛髮と等しき多數の敵を有するも、尙ほ何等の危害の其の身に及ぶことなかるべし』と嘆美せしめた譯である。人々が皆法則を愛し、法則が與へる義務を尊重することが無ければ、權利の自由のといふことは空名に過ぎないのである。今其の同盟國民たる吾々は此の兄弟分に對して、愧る所はなからうか。

往々吾々が見聞する所によると、少し幅を利せ得る人々であると、何の巡査がと云ふ調子で、假令其の命令する所が立派に國法の威嚴を代表して居ても、之れを無視する連中は少くないやうである。此れ等連中は法を愛する、此義務を尊重する精神を有たないで、唯だ相手次第で何んな事でも爲出

す輩なので甚だ頼ないことである。法よりも人といふことは普通の人情で古今東西の別なく、或る程度迄免れぬことであるが、道念の開發するに随つて、道徳の進歩するに随つて、人よりも法といふことになるは疑を容れぬことであるのに、打見る所我が社會はまだ法を法たるが故に行ふといふ程度に達しないで、法を取扱ふ人次第で萬事が行はれて居りはすまいか。言ひ換へれば、情實が勝つて正義が行はれなくはないか。早い話が、團體の事業を經營するに就て、團體員が協議して或る法規を作るとすると、其の長たるものが一般に好評あるものであれば、一般は理が非でも、貴君のなさるところですから、此れも結構、彼れも結構といふ風で、其爲たい方だいにさせる。所が餘り爲たい方だいに出来る位置に立てば、大概の人は弱點として我儘をするやうになる。之を見た人々は又た公々然起つて之れを救濟しやうとはしない。或は長たる人の弱點に付け込んでグルになつて悪い事を爲たり。左もなければ其の團體を根本から破壊するやうな亂暴な

舉動に出る。抑も此れが法よりも人主義の人々の必らず陥らねばならぬ徑路である。又た此やうな人々が團體の利益の爲めに事を協議するといふ其の有様如何と見てあれば、誰も公明正大に自説を發表する者はない、假し發表したにしても、反對論に服せぬ限り、飽くまで其の所信を貫徹するといふ勇氣はない。もし此やうの勇氣ある者は、彼奴は剛情である、頑固であるとの悪評を受ける。其れ故心には十分の不平を懷いて居つたにしても、表面には無事を装うて、左様御尤も、皆様のよろしきやうといふ顔色をして居るのが常である。或る議決は容易に出来る。が併し、議決の容易なのに反比して、其の實行は甚だ困難である。無責任の決議、無責任の立法が多い。而して其の弊は到る處に多くはあるまいか。日本に長く居た一宣教師ギョーリック氏は、其の『日本人種の進化』といふ著書の中に、此の點で吾人に苦言を呈して居る。彼は日本人が教會に這入つて、何ぞ少し氣に入らぬことがあれば、其の氣に入らぬことを調査し改良案を立て、何處迄も親切

に善後策を講ずることをしないで、忽ち黙つて引退する不都合を鳴らして、此  
 う言つて居る『日本人の沈黙の分離は彼れ等に著るしい一特性である。此  
 は各自の責任の棄却と連關して居るらしい』と。彼が經驗した特別の場合  
 が何うあつたか知らないが、大體に於て日本人に團體的生活をして行く上  
 の道德即ち正義にまだ、著るしい缺點のあるは掩ふべからざる事實で  
 あらうと思ふ。

立法と違法

團體生活に最も必要なものは法則である。随つて團體の各員は公明正大  
 に自己の意見を立て、之れを發表し、公明正大に彼我の意見に就て審議を  
 遂げ、適當の方法で、確然たる議決をなして法則を作らねばならぬ。法則を  
 作る前自己の意見を發表するに當つては誰れに遠慮もない、侃々諤々正々  
 堂々てよろしい、否な寧ろ左様することが義務である。が併し自分の出來  
 る丈の力を盡して議決が出來て愈々法則規約といふものになつた以上假  
 令其れが自分の氣に入らぬにしても、其の團體の存立する以上は忠實に之

れを守らねばならぬ。他の團體員が不心得にも法則規約を破るやうなこ  
 とがあつたなら、助言もし、忠告もし、場合によつたら當局者と協力して其れ  
 等の人に正義の道を踏ませる迄に務めねばならぬ。が自分の感情を急に  
 變じて仕舞ふ譯には往かぬ、又た左様するには及ばぬ。彼の法律規約は宜  
 しくないと思つて居ても、差支ないのみか、場合によつては意見だけとして  
 は現行法に反對するも、苦しくはない。即ち意見を草して團體員の反省を  
 催すも可い。演説によつて輿論の革新を叫んでも可い。唯だ何處迄も法  
 律規約には服従しなねばならぬ。然るを日本人は立派な法律規約を作  
 ることには、トント骨折不らないて、寧ろ遠くの方蔭の方で、貴様達に出來るも  
 のなら何んなものでも作つて見るが可いといふ風で、至極冷淡不親切であ  
 る。其れで唯だ何ぞ其れが爲めに不便不都合の生じた場合には、其れ見た  
 ことかのやうに當局者を攻撃する。此れでは何んな當局者が出て來ても、  
 團體の仕事の上る氣遣はない。最も適切な例は政治で見れば分る。

政治的  
の  
徳

勿論吾々には参政の権利がある。此の参政の権利は又同時に義務であるのに、今日天下到る所に聞かせられる弊と云へば、人民が此の権利を主張せず、此の義務を盡さないで、選挙を一種の賣買のやうに心得て居ることである。ソレハ成程少しは手間も入らう、少しは入費も掛らうけれども、一國一地方の法律規約といふものは、直接に自家の頭上に落ちて來ることではないか。よし直接に落ちて來ない迄も、立法の如何といふことは一國一地方の榮枯休戚に大關係あることではないか。一片世を憂ふる志があるならば、代議士の選挙には各自が應分の義捐を爲して迄も、團體生活の完美を希ふべき筈である。政治家には野心家も少くない。其の位置を利用して私利私益を謀らうとする者は、何時の世にも免れない。投票買収は得て此の輩のなすことである。投票の賣渡しは明らか一地方一國を舉げて此利己的野心家の餌食にする道に外ならぬことは初めから見へ切つて居る。果して日本の國政は選挙が賣買となるに連れて腐敗墮落して種々の醜態

を曝露するやうなつた。新聞雑誌は荐りに摘發して攻撃の筆鋒を向ける。天下一般も亦た政治家の陋劣を知つて來たが、もしよく此の間の真相を觀破して、かゝる悪傾向の淵源を尋ねたなら、罪は寧ろ小賣商人的選挙人にありと言はねばならぬ。彼れ等は果して何を苦んで少小の金の爲めに神聖な政治事業を俗化するか。彼れ等は其の日其の日の生活に窮して居る者ではない、普通の常識の缺乏して居る者ではない、又た郷黨隣閭に少しの面目もない者でもない。已むを得ずば此種の日本人には甚しい正義心の缺陷がある、と云ふべきであらう。恐らく彼れ等は新らしい生活舞臺に慣れないが爲め、左程悪い大關係あることも考へないで、他人もするから自分も爲やう位で、ツル／＼と此うまでなつたのではあるまいか。何れにしても隣國に聞へしむべからざることである。

自分といふ刻印の捺つた物を見る時には、兎角公平を得ないものである。進歩したい、させたいといふ精神的態度にある時は、自分の物を見下げる傾

がある。満足する、享樂するといふ精神的態度にある時は、同一の物を見上げる傾がある。小學中學の末の望の大きい青年は、自分の才は未だ足らぬ、自分の徳は未だ至らぬと見るものである。所が氣力のない、氣樂な理想抱負のない結構人は、自分は豪いものと自ら感心し、自分の妻は美人、自分の子は天才だと満足するものである。何れも自分といふものに冷淡であることの出来ない點は一つであるが、進歩と保守といふ意氣は非常に違ふ。今私は我が愛する日本に對して、進歩的態度を以て萬事を期待して居る。其の爲にもよるであらう、兎角我が國の正義心の未熟を感ぜずに居られない。彼れや此れや例は頗る多いのであるが、此所に私が最も感心して居る一例がある。其れは外でもない、日本にもよく知れ渡つて居る英國近代の一大文豪サー、ウォルター、スコットのことである。スコットは詩人で小説家で、當時歐洲で飛ぶ鳥を落す程の勢であつた。彼れは著述によつて一年十五萬圓から二十萬圓を得たといふ。其れに彼れは政務官を兼ねて居、又た其

サー、ウォルター、スコットの義勇

の妻は相應の財産も有つて居たから非常に富裕の身分となつた。ソコデ彼は兼ねて自分の理想として居た生活をした。彼れは武士道の小説家で、武士のしたやうな生活をして見たいと思つて居た。が今時節到來で、スコットランドの或る大名の住つて居た古い城を買ひ込んで、之れに思の儘の修繕を加へ、近傍の田地を買ひ足して之れに樹林池沼の趣を添へた。英國は勿論のこと、外國からもスコットの大名を聞いて訪問の珍客は殆んど毎日のやうであつた。スコットは一々此れ等珍客を歓迎して、毎夜其れこそ酒池肉林の樂をした、實に一代の豪奢と云ふべきであつた。然るに滿つれば缺くる諺に洩れず、スコットが五十五歳の時、一大不幸が突然其の一身上に降りかゝつた。といふはズット以前から彼れは朋友の情誼に纏はれて、或る印刷會社の株主の一人となつて居た。此の印刷會社は始終損耗續きであつて、負債も次第に嵩んで來る始末、もしスコットの信用によつて維いて置かなかつたなら、疾くにも破産の運命に陥つてたのであるが、債權者



は一に彼れを目當に手荒い處置にも出ないで居たけれども、千八百二十五年經濟界に大恐慌があつた時、遂に倒れねばならぬことゝなつた。會社の財産としては言ふに足らぬ、債權者は法律を楯にスコットを指して債務の履行を迫つた。何にせよ大會社の跡始末である。貸借關係は頗る大きい。スコット如何に大富を擁するとしても、立派に債務を果せば全財産を投げ出して未だ足らぬのである。昨日まで王侯を凌ぐ程の身分が、明日からは一文なしの裏店生活を爲さねばならぬことゝなる。此の時のスコットの心は果して何んなであつたであらうか。そのみか彼には妻との間に二人の娘があつた。總領娘は近く彼の高弟ロツカアトに嫁いて今はロンドンに往つて居る。而して次の娘は未だ家に残つて居る。貧乏も唯だ己れ一人として考へたら左程苦しい者でもない。が併し榮華の生活に慣れた妻子が一朝忽ちに落魄することかと思へば、随分物の分つた男兒の眼にも同情の涙が湧くは尤もである。況してや所謂借金は自分が費消した金で

はない。單に法律上負はされた義務に過ぎない。人情の弱點は此ういふ際に必らず露はれて来る。折角築き上げた社會上の位置を退くは甚だ世間體の悪いことだ、縁談前の娘、老衰した夫婦の爲め、責めて財産の一部分丈けても残して置く工夫はあるまいか、表向處分は受けるにしても、内實何とか隠蔽でもする工夫はあるまいか、其れとも、老後に至つて此の不始末此の不運、イツ一思ひに自殺でもして果てやうかなんぞ、極めて慘憺な思ひ出に苦しめられるのが人の心の常であらう。何とも氣の毒千萬のとである。けれども文豪で偉人であつた所のスコットの當時の決心は尋常凡俗でなかつた。法律が命令する正義の義務の前には女々しい恩愛の情もなかつた、汚ない名利の私欲私念もなかつた。彼れは男らしく立派に全財産を提供して債務に充てたのである。が彼れ一家の不幸は未だ此れで終らない。彼れが負うた債務は其の全財産を控除して、尙ほ後に百十七萬圓を残したのである。或る意味から見れば、此れは實に絶體絶命の究境である。

普通の道念ある人なら、百兩の嵩に編笠一介提供しても、全財産を投げ出した以上、借金證書に棒を引いて貰はうと思ふ。貰うても誰も何とも言はぬ同情が此の人に集るからである。人情に洋の東西はない。天下の同情はスコットに注いだ。サスガの債権者もスコットに向つて助力を申出た者がある、銀行家は整理方を申込んだ者がある、日頃少しも知らぬ人までが資金の用立を爲さうと言ひ越した者があつた。が併しスコットは又た斷然此れ等を謝絶した。彼れには意氣地のない依頼心が毫頭なかつたからである。ソコデ彼は五十五歳の老軀を提げ敢て一本の筆を揮つて腕極り根極り書いて書いて書き抜いて、著述によつて残る山積の負債を支拂はうと決心した。彼の心で義は泰山よりも重いのである。當時の彼の心事は翌年正月の日附で愛婿ロッカアトに與へた手紙に明らかにある、ホンに一片の手紙に過ぎないが、麗らかな人情と、壯烈な正義心と、堅忍不拔な勇氣とを遺憾なく發揮して、懦夫をして起たしめる概がある。此れからの彼は更

に幾多の不幸に逢ひ、病に苦しめられ、過勞に疲れサスガの豪傑も一日の業を了へて日記を認めるに及んで、『余は恐ろしく苦惱せり、而して寢て復た睡めざらんことを望みしことも屢なりき。されど余は飽く迄奮闘し、斃れて後止むべきのみ』と書き付けたこともある。が千八百三十二年、彼が死に至る迄七年間に、彼れは小説を著はして其の負債殘額の三分二を辨償し、尙ほ約そ三十萬圓を餘してあつたが、其は彼れが此れ迄の著書の版權を賣り拂つて、息を引き取る迄には彼れが意志した通り、百十七萬圓を綺麗に償還して了つたのである。而して彼が瀕死の寢床で、將に瞑目せんとした時、ロッカアトを枕邊に招いて、徐ろに此う云うた、『ロッカアトよ、余は唯だ汝と語るの數分時を餘すのみ。余が親愛せる者よ、善人たれ、有徳者たれ、信神者たれ、善人たれ、汝が此所に横臥するに至る時、此の他の何物も汝に何等の慰安を與へざるべし』と。スコットの如き者は、果して徹骨徹髓正義心の結晶と云へぬであらうか。

今の英國國民は悉くスコットでないことは言を待たない。彼れが毅然たる意志を實行し得たのは、一つには其の卓拔な健氣な精神氣魄によつたであらうが、又た一つには其の天才の手腕にもよつたのである。如何に英國民とても天才ならぬ限り、凡ての人が彼を眞似ることは出来ぬ。又た英國民中にも随分不道德漢もあるに相違なく、卑劣漢も無いことはあるまい。併し大體から云へば、一スコットを生ずる國は又たスコットの的であると見られる。

少くとも英國國民の理想は此ういふ所にあつて、社會の輿論が義理堅く、何處迄も正義に合つた勇氣を賞賛するに於て誤まらぬことは自ら明らかである。之れを我が國の金錢貸借上の習慣に比べて、果して優劣が無からうか。陋劣の醜態は暫らく措いて、我が國に於てはスコットの窮境に處して一死を以て責任を逃れたとすれば、天下は忽ちに恕するではなからうか。近來あつた某大會社長の自殺沙汰に就ても、世間は一も二もなく辯護の辭

同盟國は尙ほ兄

を設けたてはないか。徒らに死の潔いといふことを考へるに急であつて、團體の生存に、必至な大法正義を疎そかにし、無視する嫌は無からうか、少くとも社會の輿論が此の種の正義の認識と實行とに於て未だ遺憾な程度にあると言へぬであらうか。聞けばロンドン銀行では數億の預金に對しても曾て受取書を出さぬ、而して曾て間違の有つた例はないといふ。何うして左様のことが有り得るであらうか。其れには種々の事務上の良組織もあるに相違あるまいが、如何に良組織があるにしても、卑劣貪懣で正義の何たるを解しない國民である以上、逆もよく其の良組織を運用して、萬が一にも過失がないといふ成績を擧げることとは出来まいと思はれる。此の他傳記を讀んで見ても、文學を窺いて見ても、製造品を使つて見ても、此れ等道德の點に關して、我れ等はまだ大に我が同盟國を兄とせねばならぬ感を抱くのである。

### 第十三章 應用各論(八)

#### 博愛(上)

忠孝の日本人にして尙ほ社會的感情に缺損あり——其の弊と博愛の情——何故に日本人は外人に對して外々しくするか——何故に外人の不評判を買ふか——何故に臺灣朝鮮滿洲人に不評判なるか。

日本人は決して薄情の國民ではない、親子の間柄は至つて親密である、夫婦の間柄も至つて和合してある。兄弟姉妹其他親類縁者の間柄でも如何にも親切懇篤で最も情味の掬すべきものがある。之れを西洋國民がこれ等の親族同志の間でも動ともすると權利義務の理窟に訴へることがあるのと比べて、直に日本は家族主義であるから親切なので、西洋は個人主義であるから水臭い、彼所には孝悌貞操などの見るべき徳がなく、此所には非常な程度に於て此れ等の諸徳があるのである、とするは洋行還りの人が往々

説く所であるが、吾人の考へる所では必ずしも左様と斗り斷定することは出来ぬ。成る程西洋の社會組織は個人主義であることは争はれぬ事實であらうが、個人主義の社會には親孝行がなく、貞操がなく、従つて兄弟も親類も互に薄情であるとは斷定し得られない。今一々例證を擧げて論ずる迄もなく、西洋人の傳記を読んで見ると、献身的に孝行を盡した者も少なく、著るしい貞操の徳、場合によつては非常に高尚な貞操の徳も多く見受けられる。日本の家庭組織の長所も看過してはならぬのであるが、西洋の其れを蔑視して可いといふ理由も決してない。何れにせよ、此は輕々に論斷し去らないで、慎重な研究調査を要すること、思ふ。兎に角此の點で、我れ等も固より不親切な天性習慣を有して居らぬことは言ふ迄もなく、又た『忠臣は必ず孝子の門より出づ』て、家族の間で親切なものは國家皇室に對する愛情に於ても頗る卓越して居るもので、忠君愛國の一事に於て世界的の證明を得て居ることである。

社會的感情  
の缺陷

が此所に不思議なことには、小にしては親類即ち身内と、大にしては國家及び皇室に對して其れ程迄に愛情に富んだ國民でありながら見ず知らずの他人に對しては頗る冷澹無頓着で、悪く見たら殘酷とも評し得られる所行のあることである。一般社會即ち見ず知らずの普通世人に對しての愛情の發露せぬことは、殘念ながら吾人にあつて掩ふべからざる事實と言はねばならぬ。數年前から公德の欠乏は全國到る處で感ぜられて居る。が日常平凡の事でも、先づ東京邊で火事があると、ジャン／＼と鐘が鳴る。ソラ三ッ番だ。甲乙互に相叫んで『火事は何處だ』『ヤ川向うだ』『ソレヂヤ此ッちは安心だ、何處が一番見物に好からうか』などと、自分の方さへ大丈夫なら、人に氣の毒なんどはトント思はないで、好い見物でもしやうなど、する者がある。之れと同一類似の所行を擧げたなら、其れこそ一々數へ立てられない程あるであらう。要するに我が國民の間では、大きい國家と小さい家族との中間の社會に對する感情の發達がない、ないと言ひ過ぎな

ら、發達が遅々たることは遺憾千萬なことである。早い話が、某る家に奴僕を雇ふとすると、家の者が奴僕に對する心持ちは、彼れは他人だ、身内でない、金で雇つた者だといふ所が重になつて、『彼れも人の子』といふ者は甚だ薄い、況して彼れも我れも互にヨリ大きな家に住む兄弟姉妹であるといふ感情おやである。而して此の心持は『旅の人』同志の間で無遠慮に露はれて居る。『旅の耻はかき捨て』から始めて、旅の人であるから高く賣る、ゴマカシ物を賣る、旅の人の前であるから無作法、無禮も勝手にするといふ調子で、身内以外の人々の利益快樂の爲め、聊かたりとも自己の我儘私慾を捨てるは損と思つて居るらしいやうにも見える。勿論此れ等の奥底には、甚だしい悪意が潜んで居ると曲解すべきではない。必ずしも日本人は根が不親切である、と酷評すべきではない。外面から一見して不作法不親切の人々も、銘々家に還れば、相應の慈親、良夫、孝子であり得るのである。が其れが何うして此うなのかと云へば外でもない。舊幕時代の割據制度の結果として、大多數

の人と人と關係する機會がなかつた所から、未だ一般社會の交際に慣れない爲めに、所謂『人付きが悪い』といふ迄であらう。丁度秘藏息子や箱入娘が家の者には非常に深く親しむ丈けそれ丈け家の者以外には人懐こくなく、敢て性來殘忍といふではないが、案外同情がない斗りか、次第によつては酷薄と見える所置もあるやうなものであらう。

秘藏息子や箱入娘に、何故普通世人に對する同情が無いであらうか。其の心理作用を知る時は、我が國民の社會的感情の缺損ある所以が領解される譯である。大凡そ人間として、自己以外の人を愛する情を有たぬ者はない、而して此れが開發されて國をも社會をも愛するやうになるは今更言を待たぬ。然るに兄弟もなく知人出入の者も少なく、明け暮れ殆んど全く父と母位を相手として生ひ立つて來た獨りツ子などであると、利他の情が其れ以外に及び得る筈がない。タマサカ他人を見る時は、其の人の存在だけは認識出來やうが、一向に氣乗りはしない、此の人と遊んでも話しても、又た

何ぞ共にしても愉快なものだといふ感じが起らない。内面的に感情的に他人と結び付かない。それ故少し大きくなつて、已むを得ず他人の中へ出て交際する時は、勢ひ名譽とか利益とかいふ糊か膠で以て接ぎ合せなければ、忽ち離れて仕舞ふ。よく接ぎ合はさつてあるなといふ場合を見れば、何も社會的感情が強つて内面から結合して居るのではない、ホンの互に名利を得る道具となり合つて居る限り、僅かに保ち得る仲間に過ぎないので、名利關係の切れ目、即ち縁の切れ目といふことになるのである。がもし此んな獨りツ子に大勢の家族があつたり、出入のものが多かつたりすると、而して其れ等の人々が普通に善良な人々であつたとすると、何うなるか。此れ等の人々の其の子に對する愛の所行は、其の子の心に又た愛の情を喚び起す。ソコデ兩親に斗り集注して焼ける斗りに烈しかつた利他の情は、同時に多くの人々に割り當てられることになる。左まで強い愛でないにしても、信任の置ける、懐かしい人々が殖える。誰れが遊びに行かうと云へば、

ハイと云つて嬉しがつて隨いて来る。此れを上げやうと云へば、有り難うと喜んで受取る。他人から見れば可愛い子となる。遊びに連れて行く者、連れられて行く者、物を與へる者、與へられる者、必らずしも何ぞ外に目的があつてするといふではない、共に左様の關係に入り込むといふ其の事が面白いのである。出入の者などの中には随分利害の念を以て子供に對する者も有らうが、早くから兩親が開放主義に他人に任せるやうにする時は、天真な無邪氣な小供の利他心は遺憾なく開發されて來て、遂には却つて小供の愛から其の我慾な出入の者の愛情をも喚び起す場合もあつて、結局何時かは小供と周圍の人々と内面的に結合するやうになる。小供の心には其の愛情を寄せべき人々といふ考、即ち比較的に大きな社會の概念が出来ることとなる。此の大きな社會に對する感情は、固より家族に對する愛とは深さに於て、強さに於て大層の相異が有る。ソコで深い強い愛の社會と、淺い弱い愛の社會とが自然と心の中で分れて來る。而して此れより以上、小

供の入り込む關係が多ければ多い丈け、其の社會的感情の種類が分れて來る。同窓、同郷、同業、同文、同種など數へ立てれば限りもないが、何れも共に其の屬する社會内で相互に或る度合の愛を以て内面的に交際することは同じである。而して其の最も複雑になつて、最も數多くなつた結果は、遂に人として愛するといふ、極く廣く大きい抽象的の社會的感情を有つに至るので、之を博愛とも、又た人道の感情ともいふのである。今日日本人は社會一般を愛する心が乏しいといふは、全然社會的感情が缺損して居るといふではない。其は有ることは有りながら、入り込む社會が狭く小さくあつた爲め、細かく分化されてない、精練されてない、餘りに具體的で抽象的になつて居らぬといふ迄である。

兩親の外は親しむことの出來ぬ程天真な男子女子は、眞に無邪氣で愛らしいものであるが、忽ち大きな社會に住まねばならぬやうになると、幾多の弱點を現はして來る。其の情を以て接しない限りは、名利で外面的に交は

天真なる人の長短

る外はないが、又た情を以て人に接する一段となると、其の接し方が餘りに單純で、非常に親しむか、非常に疎くなるかの一本道である。人は己れを尺度として他人を見る外は出來ないものであるから、己れが單純であるだけ其れ丈け人を見ることがも單純で、世間の人を或は兩親のやうに、或は仇敵のやうに見違へる。雅量がないと同時に、鑑識眼がない。然るに社會的感情の分化された精練された人となると、其の感ずる情は其の入り込む社會と共に多種多様である。親族として愛することの出來ない人をも、朋友として愛することが出来る。朋友として愛することの出來ない人をも、同業として愛することが出来る。同業として愛することの出來ない人をも、同國民として愛することが出来る。殆んど何れの點から見ても愛することの出來ない人をも、人としては愛することが出来る。國家的利害の衝突から互に敵味方と分れて命の取り遣りをする場合でも、一面には人道博愛の情を湛へて居るといふことが出来る、容易に人に許さない代りに、又た容易

に人を捨てない、容易に狂喜しない代りに、又た容易に激怒もしない。随つて人を見る時分でも、分析的に考へて、某の人は如何なる種類の社會の人としては何れ程憎むべきかを知つて、適當の所置態度に出ることが出来る。大學に所謂好而知其惡、惡而知其美といふは抑も此種の人である。此種の人でなければ、文明の衢に立つて世界の人と交際して故障なく道中するとは六ヶしいのである。

外人は何と吾人を評して居るかと聞けば、彼等は多く我等が皆打解けぬ人種であるといふ(前記ギユイリ、ツク氏著参照)。既に幾十年日本に居住して新聞事業に従事し、其の上日本國民性の研究に熱中して居る人生通の一記者でさへ、尙ほ日本人の眞情はさだと評して居る。此は聊か誇張とも言へやうが、外人などに對して我等が餘りに打解けぬは事實と言はずばなるまいと思ふ。外人に對してはない、比較的優秀階級の人士を以て組み立てられて居る官府が人民に對してさへ、何ぞといふと秘密主義を御箱として居るとは、當時一般



公認の事實である。して見ると、國內人民相互の交際上でも、割合に秘密の伏在して居るべきは想像に難くない。而して秘密が伏在して居るといふは、打解けぬこと、打解けぬといふことは何處何處までは親しんで可く、何處何處からは親しめないといふ限界に明らかでないことではあるまいか。換言すれば、数十年間の交際も未だ吾人の胸の錠を開け得られぬといふことがあつたなら、其れは決して吾人の心の多様複雑の爲めではなく、却つて吾人の心の天真で單純であるが爲め、外人などとなると、一概に恐れて了つて中心極端に疎んじて、テンデ初めから實を吐かないからのことではあるまいか。政府の秘密、人民の秘密、秘密秘密が多過ぎるといふことがあつたなら、其れは一つは分析的に聞き取つて呉れる人々の少ないと、又一つには分析的に人々の關係を考へて、親しんで可い限りは何處迄も打解け得る人の少ないことを表白して居りはずまいか。もし果して左様であるとすれば、此れ等も畢竟社會的感情の分化精練の足らない所に基因して

外人との交際失敗の本

居るので、其の裏に含まれて居る危険あるを免れない。即ち數十年又て押し通して來た所の人を疎んずる、其の強い感情は、同時に先きの出様次第では、直に打分けてならぬ秘密までも打分けて了ふ力となる。國民相互間に伏在する秘密主義は、疎外主義であると同時に、又た相手次第では、餘りに偏頗な情實主義と變化する恐れがある。而して吾が國民の間には、此れ等惡傾向も認め得られぬことはないではないか。

米國出稼人が不評判なのは、人種上經濟上色々の理由があるに相違ないが、又た一つには日本人が、單に米國を己れ等が金を掻き集める場所と斗り見て、一向其の住民等に懐かない同化しない爲めにも由るといふ。即ち日本人が或る程度迄打解けて、先方の快樂利益にも注意を拂ふといふ行動作法が足りないのであるといふ。此れも元を質せば、吾等の社會的感情が練れて居ないに基くと云へる。出稼人ばかりではない。吾等が西洋文明の利器を利用するのでも、其の通りで、法律、制度、科學、文學を始めとして、種々の

器械器具、軍艦、車輛、其他一切歐米文化の製作物を取り入れるに如何なる心事を以てしたかと云へば、恐らく又た例の狭い考で、單に名利的關係の外幾許の眞摯愛敬の誠があつたであらうか。具體的に一例を挙げれば、彼の壯大な微妙な工業上の器械を買ひ入れて、之を運轉する時、工業主技師等の心に、此は吾等に大なる利益を與へる所の無上に重寶便利な道具といふと、の外に、之れを作り出した偉大な人格の經驗した幾多の困難辛苦、其れこそ善極まり美極まり、表皮一枚を撥ね除けて窺へば、其所には血もあり涙もあることを思ひ浮べて、其の勞を思ひ其の惠を感謝して、徐ろに工業の世界的人類的目的に想ひ到つたものが幾人あつたであらうか。吾人は敢て之れを、歐米人の利益の爲めに言ふのではない。吾人の精神的修養の欠乏、社會的感情の粗朴の報を受くる者は、吾人の外にはないからである。歐米文明に限らず、凡て文明が生じた製作物に對して、單に之を己れ等が名利を得る手段と斗り見る國民は災なる哉である。左様な淺薄な不眞面目な不親切な

國民は到底眞に文明の道に進歩することは出来ぬのである。有形の形は速時にも眞似られる。併し文明の眞似は活きた文明ではない。活きた文明には活きた精神がなければならぬ。至醇な至厚な愛精練され、合理化された社會的感情がなければならぬ。

臺灣の統治が六かしいといふ、朝鮮滿洲の懷柔も容易でないといふ。事業の性質上固より然るべきである。併しながら又た一つには、吾等の彼れ等に對する態度に同情の伴はぬも一因である。本來から言へば、我れ等は血税まで拂つて彼れ等の爲めに平和安全を沾へ與へたものである。然るに彼れ等が日本の世話を喜ばないで、寧ろ其の地から我等の撤退を望んで居る風があるといふは奇怪至極のやうであるが、能く思へば、滿更彼れ等斗り悪いのではなく、罪は又た優者たる吾等にもあるに相違ない。天真な人は惡意なしに、無意識的に他人の好意を害する傾がある。己れに親近な者に非常に親切であると反對に、疎遠な者に外々しくする、時によると手

荒くする。薄恩亂暴は假令左迄の量見あつてでなくとも、同等の者の間でさへ不和反抗を招く。此れが優者劣者の間にあるとすると、甚だしい憎悪怨恨を生ずる。日本にも自ら人物のない譯はないが、新開地に渡る人々の中には、随分益もなきに未開人民の感情を害して、直接間接の危害不利を招くのも多いといふではないか。何ぞと言へば、叱る、威す、擲るの一點張で押通さうとする傾があるといふではないか。同じ事をするにも、其の顔に温か味がない、其の口に柔し味がない、其の舉動に親切な禮儀がないといふではないか。が此れ等は皆な末なので、本はと云へば、其の心に博愛の誠意が無いからである、否、無いのではない、足らないのである。

上來吾人は聊か吾人自身に就て、愛の情の發達に不満足な點あることを指摘した、社會的感情、人道博愛の情の缺陷あることを研究した。快き仕事ではないが亦た已むを得ぬことである。果して此の缺陷が從來の家族主義の保持、否、發達によつて救はれるか、將た更に個人主義の取得によつて

充實せられるか。此は國民の修養教育に取つて頗る重大な問題であるが、此所には之を解決しやうとするのではない。唯だ吾人は「博ク衆ヲ愛」するとは何を意味するかを熟知して實々落々に之れを身に體することの要を唱へる者である。

### 博 愛 (下)

外人と社會的風儀——日本人に對する英國人の同情——日本に於ける外人の慈善救濟事業——米人の公益事業——英國上流社會の愛公心——日本人は平時に於て更に大に博愛心を養ふべし

普通の日本人に向つてナゼお前は着物を衣更へ、身なりを作つて外出するかと問うたなら、笑はれるからと答へられるだらう。此答は其の動機が名譽心にあることを告知らせる。西洋人とて、此の心があるに相違ない。が併し、同一の間を彼れ等に出したなら、恐らく他人に快樂を與へ、其の幸福を進める爲めといふであらう。彼れ等にも幾分の偽善があるに相違ない

が併し此方が自分本位の心持であるのに、彼方が他人本位であることは明らかではないか。西洋の母親は子供が一步家門を踏み出す時は、必ず厳しく他人に迷惑を掛けぬやう心掛けよと命令するといふ話である。之れを我國の風俗で、家内に居てはウルサイから外へ出よ、家内に居て穢ない真似をしてはならぬ、外でせよと、恰も自分の家内さへ靜肅で清潔であれば他人のことなどは何うでも構はぬといふ調子なのに比べて、甚しい相異があるではないか。西洋でよく公德の行はれて居ることは旅行家が十分に紹介したことで、今更繰返す迄もないが、抑も其の根底を探つて見れば、日本人が名譽心でする所を、彼れ等は愛でするといふ、工合は慥かに有らうと思ふ。名譽心は名譽が與へられなければ善良の風儀の實行も止めて仕舞ふ。然るに愛情が本となれば、假令先方が何う思ふにしても、他人の便利幸福となりさへすれば人の賞める賞めぬは二の次である。彼れ等は他人の快樂幸福を重んずる。他人といふは自國民にのみ限らない、其れが單に人であ

マクレイン嬢

日本學生の母

るからである、人として互に兄弟姉妹であるからである。ロンドンには日本水兵の母マクレイン嬢があるといふ。此れは左しての財産家ではないが、先づ相應の身分ある老嫗で、此れまで既に幾十年間日本水兵の爲めに、親身も及ばぬ世話面倒をして呉れた人だといふ。國の爲め職務の爲めとは云ひながら、我が海軍々人が遠く故郷を離れて英國に行つた時、一向に知人といふはない。世界最大の都の眞只中に、不知案内の者が滞在するとなつては、方角も分らなければ、會話も覺束ないし、度くても買物も出来ない、見物も出来ない、ソレに長い間には病氣の時もある。賑やかな極、便利の極の所に居て、無上の淋しさを感じ、無上の不便利を感ぜざるを得ない。マクレイン嬢は此れを思ひ遣つて、心から日本水兵の爲めに盡し、水兵が行くことが前以て分ると、埠頭へ迎に來る宿所へ連れて行く、所々の案内をする、病氣に罹れば看病もする、慰めても呉れる。其れは、隅から隅まで届いた世話の仕方であるといふ。同じやうに、ベルリンに行けば此所に、日本學生の母

が居るといふ。ベルリンは多く留學生の行く所で、此れも我が子と云つて學生を可愛がり、全く我が子のやうに親切に扱つて呉れてること既に何十年で、今は歴々の方々の中で、其のお蔭を蒙つて居る者も少くないとの話。言はゞ此れ等は下宿屋のお神の位置に過ぎないので、別に金銭上の補助をするの何のといふてはあるまいが、同じ仕事を、するにも愛があるのと無いのでは、非常な相異である。今は日本にも世界各國の人が集つて居る。比較的優勝で威張つて居る歐米人は暫らく別として、韓國人、支那人、印度人など、或る意味に於ては我々よりも劣つた國民の留學生なども少くない。所が日本下宿屋の彼れ等に對する所置は、中々彼れ等の母どころか頗る亂暴で、寧ろ彼れ等の不知案内に乗じて不正の利得に有りつかうとする者さへ有るらしい。勿論朝鮮支那邊の留學生にも卑劣な厭ふべき性質のある爲めと、又た一つには大體日本の國勢が未だ英獨のやうな餘裕のあることを許さない事情があるにも由るであらうが、慥かに吾人に人を人として愛す

る情の開發が十分でないにも、基因すると言はずばなるまいと思ふ。而して其れも一人や二人の事ではなく、概して左様であるとも言へると思ふ。概して左様などといふと、随分異議を申立てる人もあらうが、試みに思つて御覽じろ。此所に一人の中産の寡婦がある、別に係累があるではなく、又た別に職業を執る必要もない、左ればといつて終日何の爲すこともなく、安閑と今日を暮らすは天道様に濟まぬとあつて、フト思ひ付いて同文同種の東洋人の世話をする。例の下宿屋を開いて、母の心持ちで色々の便宜幸福を彼れ等に與へてやる。かういふ者があつたとすれば、彼れ等の喜は固よりであるが、扱て之れが一般公衆に知れた時、吾れ等は之を何と評するであらうか。ア、彼の人も感心な者だ、親切な者だといふ同情を得るであらうか。其れは頗る六かしくて、多くは彼の後家さんも餘程變り者だ、世話をするに人を欠いて、チャン／＼何かを子のやうに可愛がつて居る位の評判は忽ちに受けはすまいか。事によつたら日本人を差置いて外國人など可愛がる

のは、非忠君非愛國だなどの酷評も出ぬとは思はれる。日本人に社会的感情のある士女も少くないことは私の信ずる所であるが、概して言へば此やうの傾向がありはすまいか。

旅へ出て突然天刑病患者に逢つたとする。皮は破れ、肉は爛れ、赤黒い地から膿汁が流れ出て、悪臭紛々百歩の遠きまで達する。誰れも一見して好い心持ちはしない。日本人の多くは顔を背けて通り過ぎるであらう、心無い男女の青年などになると、唾をしたり足を早めたりして偏に一刻も早く此の厭ふべき醜骸から逃れ去らんとするであらう。而して少しも彼の醜骸の中に、如何なる苦痛が宿り、又た如何なる不憫さが藏れて居るかなどは考へぬであらう。他人は固よりのこと、親類の者でも、己れを思ふ割合に病人を痛はらない、此やうな病氣にかゝつた者があれば、一家の名譽に關はるといふ考から、多くは本人も納得のごとでもあらうが、兎に角病人は家を出て所定めず廻國と名くる浪々の生活をさせる習がある。而して之を救治

日本に於ける外人の慈善公益事業

し之れを慰安する方法は最近まで殆んど立つて居なかつた。然るに英國貴婦人ハンナ・リデル嬢は左様でなかつた。彼の女は日本へ来て熊本清正公様へ參詣して、全国各地から其所へ集つて来て居る所の彼の不幸に沈み絶望に悶へて居る幾多の天刑病患者を見て、深く同情の念に動かされ、先づ其の私財を抛つて地所を買ひ病院を立て、彼れ等を收容し、爾來十數年誠心誠意を以つて彼れ等の良友救護者の業に服して居るのである。其の後同情者助力者も加つて、彼の女の創めた回春病院は今現に此の點で多大な貢獻を日本社會に與へて居る。此れは眞に一例に過ぎないが、之れと似た西洋人の日本に於ける社會救濟事業は、各派宗教の傳播を目的とはして居るにしても、また慈善病院、孤兒院、教養所、青年修養會など、誰れが見ても實利實益を日本社會に與へて居ると思はれることが、東京横濱丈でも少なくない。布教の手段に過ぎないと思へば其れ迄で、悪く言へば親切の押し賣りとも見えぬではないが、自國社會の缺陷を先づ外國人によつて満たさ

内外の宗教  
的喜捨に就  
すて趣を興に

れる社會は、愛の道に於て威張れた者でないことは明らかである。博愛の半面にも利己の分子は認め得られやう。けれども利己の分子の認められるは、利他の要素の發達せぬ證據ではない、却つて慈惠的設備機關の備はらないことこそ、愛の情の缺乏を示すと見て差支なからうと思ふ。

設備機關と云へば此所に宗教の勢力を思ひ起すのである。歐米で救濟慈善の事業は政府の租税でするものもあらうけれども、今は多く民間の喜捨に待つやうである。英國などでは嘗ては貧民救助費を法律で取り立て、今も全く廢されては居らぬやうであるが、次第に之を人民の慈善心に訴へてするやうになつて來たらしい。何れにしても人民が救濟慈善を目的として、物資を教會或は特に其の爲めに設けられた團體に義捐するので、外國民即ち東洋文化の開發に向つてまで供給することが出来るのである。此の點から寧ろ彼れ等に社會的感情の開發があると斷言するは輕卒であらうか。或る人は言ふであらう、宗教的喜捨と云へば、我が國にも實例は少く

ない。現に眞宗宗徒などが、本山の爲めに出す金は中々容易な者でない。越後邊の今日今日暮しの水呑百姓でも、千や二千と纏まつた金を出す者がある、而して年々歳々本山に集る額は頗る多大の多寡に達する、決して西洋に劣ることはあるまいと。成る程其れには感心すべき所もあるに相違ないが、併し其の喜捨する動機如何を考へて見る時は、餘り感服出來ぬ工合がある。即ち彼れ等の喜捨はもと自己の淨土へ生れんが爲めて、廣く他人社會へ關係したることではない。時とする之れが爲め他人を害しても構はない傾があるといふ。何時であつたか、或る一人の水呑百姓が粒々辛苦の千金を懐にして本山へ献金に行く途中、旅費がないので道々竊盜をなすつゝ、饑餓を凌いだといふ話もある。喜捨其事が穴勝感すべきではない。之れを利己的であるか、利他的であるか。何事にも利己的要素は免れぬとして、適切に云へば、其中に利他的分子をも含蓄して居るか居らぬか、社會的感情が含蓄して居るか居らぬか、又た其の社會的感情の大きさが何れ程であ

るか。これが肝心の問題なのである。所が所謂信徒の義捐の動機の中には、残念ながら自己が極樂往生の外、餘す所幾許もないではないか。左すれば千金萬金も畢竟皆是れ本山との契約上、自己往生の手付金に外ならぬ。此んな物質的賣買で、果して往生が出来ると否やは別として、本山は其の宗義の命ずる所に従つて、外間には窺ひ知れぬ方法で某々喜捨人の往生手續をすれば事が済む譯で、喜捨された金を更に公益の爲めに利用せねばならぬ義務を負はぬのである。眞宗の本山が更に社會の公益を盡して居らぬといふではないが、其の公益を盡すは單に本山の好意に出るとして、喜捨人に對する義務からではない。明僧智識が權力を握つて居る限りは知らぬと、場合によつては之れを自己の華奢淫蕩の資に供することも自由な譯である。然るにもし此かる喜捨に社會的感情の含蓄されてある時は如何であらう。義捐者は各々献金に社會の公益といふ特別の目的を有つて居る。幾千萬の義捐金も濫りに之れを私用に供することは出来ぬ、貧民病院に若

干孤兒院に若干、其他何、其他何と一々使拂を明細にして、其の悉くが必らず人類同胞の用を足したといふ證明を擧げる義務がある。歐米の宗教的義捐が即ち此の種のもので、本願寺の或る信徒のと大に趣を異にして居るではないか。

宗教的喜捨は別として、歐米人の社會的感情の旺盛なことは、彼れ等が競うて直接に社會の公益を目的としての喜捨でも明白である。歐米、特に米國では富豪の間に幾多の寄附金があつて、大學などでも公立よりも私立の方が建物も立派で設備も完全で、資金も充實して居るといふではないか。圖書館も病院も學術の研究所も農事試験場も、凡そ公益となるべき儘かな事業と云へば、即時に莫大の金が集るといふは何と羨むべきではないか。カルテギの如きは其一生に貯蓄し得た幾億の富を、ホンの僅少部分を其の子に残して、其の餘は全部世界人道の爲めとなる計畫に喜捨して仕舞ふと公言して居る、而して最早着々實行して居る。加州のスタンフォード大

盛大なる米人の社會事業



學はスタンフォード一家の設立したもので、吝嗇で没分曉と言はれるロックフェラーさへシカゴ大學に幾千萬弗の寄附をなして居る。近頃の雜誌で見れば、彼れは遂に其幾億弗の全財産の内、一少部分を残して其の餘は之れを世界人類の爲めの公益事業に投ずると公言し、其の長子は既に實業界を退いて専ら此の事に盡力するといふ。と云ふも米國の輿論が、富豪は公益を進める義務ありといふ信條の上に立てられて頗る有勢な所から餘程の分らず屋までが遂に感化されずに置かれぬといふこともあらう。が考へて見ねばならぬことは、此やうな健全な有力な輿論の偶然に出來ぬことである。何事も言ふは易く行ふは難い。もし米國の百萬富限ならぬ人々、即ち普通の富豪或は其れ以下の人々が、己れは一切公益を謀る心がなくて唯だ一種の嫉妬、羨望、或は其の他の劣情から百萬富限者斗りを責めるのであつたら如何であらう。新聞に雜誌に、教壇に筆を揃へ口を揃へて一齊射撃をしたにしろ、彼れ等富限者は自分で實力實權を握つて居る以上ビクと

もせぬことであらう。富の競争の劣敗者共が、我利我利亡者の浮ばれぬ者共が手疵の痛さに、落膽のつらさに、泣きわめく聲と外感せぬであらう。然るを筆に力あり、聲に返響があるといふは、比較的富まぬ上中流のアメリカ人が、自ら率先して博愛義侠の模範を示し、而も其の數が全國を通じて多數を占めて居るが爲めに遂に此に至るのではないか。千言萬語は一の實行に及ばないと同時に、博愛義侠な多數の上中流の勢力は、頑固卑吝な少數の百萬富限を感化するのではなからうか。果してアメリカ人は公益の爲め、上中流は思ひ思ひな道で盡して居るらしい。ヴァンダービルト、アスター、ケンネヂー、其他に著名なる者は殆んど數へ盡し難い程で、中には數百萬圓を無名で喜捨した者もある。『肺臓は小さな肺臓から成り立ち、肝臓は小さな肝臓から成り立つ』といふが、此れ等のとを考へ合はして見れば、正義義侠を標榜して居るルーズヴェルトが、アメリカで勢力を揮ひ無上の聲望を博するといふも、アメリカ人が大體皆ルーズヴェルトから成り立つて居る

からのことではないか。アメリカ氣質と云つて世界に知られて居る所は、餘り評判の好いものではない。ヤレ貪慾のヤレ野卑のヤレ成金のと色々面白からぬ賞められぬ性質もホノ見えるが矢張建國當時ヤンキーの美質を保存して居ると見るのが正當である。眞に羨ましいではないか。其所へなると吾々は顔色がないやうな氣がする。

カルチギーやロックフェラーが宣傳し實行しやうとする計畫は極端な公共事業で殆んど私有財産を是認しない程度にまで進んで居る。社會主義ではないが倫理の抽象的理想を字通りに極端に實行しやうとする思ひ切つた處置で、公益を思ふ至誠は及ぶべからざる所であるが見様によつては聊か突飛とも云へる。保守的な英人は之を學ぶ者でない。勿論英人の中にも例のセシル、ロージがあつて、其南阿の金やダイヤモンドで利し得た世界第一と呼ばれた富の大部分を、ロージ給學資金としてオクスフォード大學へ寄附し、アングロサクソンの理想的健兒養成の基金となしたなどは、同じ

英國男女の  
公益事業

公益事業の中でも頭抜けた氣拔な遣方である。又た文豪ラスキンが親護りの大富を、其の考案した新社會建設の試験の爲め費やしたなども随分思ひ切つた遣り方で、英國式米國式の區別はないやうである。が併し大體から云へば、英國紳士は歴史舊慣を重んずる、輕々しく其の年來得て來た特權を捨てない。大地主は何時何時迄も大地主であらうとするし、富限者は何時何時迄も富限者であらうとする傾がある。即ち彼れ等が家系を重んずる所以で、又た實際幾百年も血統の連綿と續いた舊家のある所以である。而して此かる舊家となると、水呑百姓から一躍して富限となつた者などに比べては、自ら見識品格を維持して居る。世間も亦た同列に之れを見ない。紳士といふ資格の一つには、恐らく此の家柄も這入つて居る。ツマリ金の有る家柄の好い人は、自らも氣取り世間も氣取らせて置く。一寸考へた所で、此れは不思議のやうである。人物標準でなくて、金や家柄が左程迄貴ばれるといふことは、道德を貴ぶ英國に有るべき善がないやうに思はれるが、

底に底ありてよく調べて見れば至極尤もな道理があるのである。英國の貴族の内にも随分分らず屋もある淫蕩者もある慾深く頑固で話にならぬ者もあるに相違ないが概して言ふと彼れ等はよく自己の天職を自覺して居る。其の富力と地位とを社會公益の爲めに利用することを知つて居る。即ち其の名譽富貴を唯だ自分一己の快樂を得嗜欲を満す道具とはしない。貴族は主として公益の進歩を其の本業として居る。彼れ等の妻女の中には綺羅錦繡を装ひ寶玉を光らせて、ロンドンの交際場裏に一代の豪奢を闘はすといふ者もあらうけれども此の人は又た衷心博愛の至情があつて、必らず一面慈善救濟の事業にたづさはり、金力と勢力とを之れに捧げることを辭しないのみか藥を調へ衣服を縫ひなどして日曜日毎に貧民を訪問して必用に應じて之れに施與してやる。此んなことは殆んど彼れ等仲間の風俗となつて居る。否な今日彼れ等仲間には如何にして慈善救濟事業を爲すべきか競争の態となつて居る傾がある。兎に角其の意氣の向

英國貴族富  
豪の奉公事  
業

ふ所が知られるではないか。余は嘗てスコットランドのペリヤル家の夫人ダーヴァアギラの傳を讀んで、オクスフォード大學のペリヤル、カレッヂが七百年前彼の女の寄附指導に待つたことの大なることを知つて、英國女人の敬愛すべきは今に始めぬことであるに感じた。

女子既に然りである。男子も亦決して之れに愧る者ではない。彼れ等は如何に大才大徳でも、大富を擁しない者では逆もすることの出来ない役割を務める。其の第一は政治である。言ふ迄もなく、政治は大業である。首尾克く國政を料理鹽梅するには莫大の入費がかかる。此の入費の全部は逆も一般から徴集することは出来ぬ、又た政府から貰ひ立ることは出来ぬ、即ち富者でなければ務め切れぬ所以で、もし幾分たりとも政治を利欲の手段とする傾があると、必らず、何處かに無理が出来る。誤魔かすか、賄賂を取るか、節操を賣るか、所謂政治ゴロの本領を現はして來ねばならぬ譯となる。左まで悪い人でなくとも、貧乏で政治に與ると餘程シツカリしないと、

ツイ不覺の醜辱沙汰になる。其所が英國の貴族の天職の存する所で、彼れ等は不正に何人にも依頼しなければならぬやうな弱點を有つて居ない。何十年政權を握ることが出来なからうが、食ふに困らない。自ら獨立の見識を以て、自己の政綱を立て、急がず、徐ろに輿論を喚起し、輿論を教育し、多年一日其の主張の貫徹を期する。事跡の上から見れば、左まで目ぼしいことはなくとも、苟も正義の主張は安價では買はれない。多年の失意を忍び、多大の失費を恐れず、世俗の譽を後にして、當路者たる權力に遠ざかり、言はば椽の下の方持ちとなつてまでも、自己の政見を曲げないといふことは、眞に男らしい、貴い愛公の精神ではないか。英國では國會議員の多くは世襲であるといふ。即ち親から子に、子から孫に、國會議員となるといふは、代々愛公の精神があり、代々愛公の事業をなすのである。もし之れと競争するものがあるとすれば、其れは愛公の精神が何れに多く、又た愛公の事業が何れによつてより善く行はれるかの問題で、何も其間に陋劣醜穢の争は

ない。實に「其争や君子なり」得るのである。此んな公明正大の争なら、寧ろ争つて貰ふ程結構なので、争つてゐる當人同志さへ、政見の相異材能の多少は別として、互に同情を以て、交際することが出来る。勝つも負けるも洒々落々、胸中光風霽月の趣を以てすることが出来る。英國代議士の一々が皆此やうの風骨を備へて居るとは云へまいが、チャールズ王以來、彼れ等が美しい立憲政の模範を與へたといふ事實から演繹しても、其の多數はマア此うであつたと許さなければなるまい。此やうな政治家であつたとしたら、假令彼れ等がカルネギトヤ、ロックフェラーの噸に倣はずとも、又た少し位氣取つた所で、貧民共が苦情を持出すことはない筈である。此やうな貴族は、社會の側から見ても眞に敬愛に値するからである。

貴族富豪の凡てが政治上の手腕を有ち、嗜好を有つことは有り得ない。ソコデ、彼等の中にも、陸海軍に志す者もある、科學文學に志す者もある。美術や實業に志す者もある。此は事物自然の道理で、左様あるべきである。

が併し彼れ等の此れ等に志すは眞似事ではない。するとなれば眞面目に熱心に、又た根本的にする。此所にも彼れ等の特色は、貧乏人では逆も及ばないやうなことをする所にある。勿論天才は或る階級へのみ生れない、又た金力で買はれないが、苟も地位と精力でなし得ることなれば、彼れ等はなし得る最上を爲さうとする。此れ等に就て一々例を擧げるは其の煩に堪へぬことであるが、エマーソンがエルデン卿に就て此う言つて居る。「アテシに於てエルデン卿は、グリック古物のある目ぼしい残墟を見付けた。諷刺詩の悪口に頓着なく、足代を仕つらへた。それで其の古物採集に五年の勞力を費やした後、やうやく其の大理石像を船上に荷積した。其の船が暗礁へ乗り上げて海底深く沈没した。彼れは莫大の費用をかけて潜水業者を備ひ來つて、悉く大理石像をすくひ上げてロンドンへと運んだ。が、ヘイドン、ラゼリ、及びカノヴァ、並に全世界の凡ての明識が其の賞賛者なることは一向に御存知なしてある」と。エルデン卿は軍人に兼ねるに外交官を以

てしたスコットランドの貴族で、大學教育を終へて後公生涯に入つたが、其の傍ら藝術學問の爲め右等のことをしたのである。彼れが此の事業に要した經費は凡て五十萬圓で、後英國博物館へ賣つた値段が三十八萬圓であつた。今『エルデン石像』と呼ばれて居るのは即ち是れである。假りに彼一己の利益ばかりから云へば、此れは甚だ損なことと、始めから英國人は荐りに此擧を嘲笑して居つたのみか、愈々ロンドンへ運んだ後とても、或る専門家などは石像の價値を怪んで、馬鹿なことをしたもの、と惡聲を放つた者もある位で、少なからぬ入費をかけて殆んど世話設けの觀があつた。所が彼は仔細に研究を積んで、逐一其の結果を報告して、石像の眞價が知れるやうになり、お買上の榮を蒙むつて有りがたく、十二萬圓の損失をした。此れ等が貴族の道樂とても言はうか、廣い意味での愛公心がなくして何うして此ういふことが出來やうか。此れはホンの一例であるが、此の外高尚の學理の研究や、高尚の美術の作成などに至つては、凡俗と殆んど没交渉で、隨つて

數てこなす多數者を相手として商買になつたことでないことは分り切つて居る。さればと云つて之れを怠つては一國文化の開發は期せられない。ソコデ貴族富豪は之れを引き受けて事情の許す限り自ら研究し或は才能者を保護して斯界の爲めにする。英國學者が書齋裏の學究でなく大學教授でなくて、寧ろ俗間に多いといふことは既に諺の如くなつて居る。其れといふも貴族富豪が其の有り餘る力を以て此れ等に當るからの事で、決して其の外の理由ではない。日本によく知られて居る中でラスキンでも、ラボックでも、レスリー、スチーヴンでも、フレデリック・ハリソンでも、バルフォアでも皆な是の種の人々である。彼れ等の胸中日夕社會國家を意識して、ソラ社會の爲め、ソラ國家の爲めと社會國家が奥齒に挿まつてあるや、否やは知らぬこと、其の眞と美と善とに對する熱烈な興味の中には自ら偉大な社會的感情の潜んで居ることは疑ふべからざることである。

右等の事實を根底として、余は日本國民よりも歐米國民の社會的感情が

吾人發憤の  
必要

優れて居はすまいかと心配するのである。歐米國民は荐りに日本國民の忠愛心の旺盛を謳歌して居る、而して實に吾人は此の點で正當に世界に誇る權利があるに相違ないが、併し其れは多く非常時戰時のことで、常時平時の奉公的事業に於ては、寧ろ大に彼れ等こそ我れ等に勝つて居はすまいかと思ふ。我れ等はまだ、油断してはならぬ。尙々大いに社會的生活に就て研究し、其の研究の結果を實行しなければならぬ。

## 第十四章 應用各論(九)

### 修養法一斑

實現方法の二種——修養の目的と手段——勅語、詔書と道德主義——出世間教の修養法——其批評——眞の修養法

上來述べ來つた所は道德の理論と實際である。併し理論と云ひ實際と云つても頗る範圍の廣いもので、中々容易に述べ盡すことは出來ない。今は暫らく本講を了るに臨んで、一言道德の實現方法、即ち修養方法に就てお話しやうと思ふ。

廣く道德の實現方法と云へば、佛教家の所謂自利利他の二つがある、即ち自ら道德の旨を明らかにして、之れを其の身に實行すること、單に自ら實行するに止まらず、世間一般にも之れを實行せしめることとである。後者は學校教育及び社會教育の關する所で、前者は精神修養又は品性修養と名

勅語と詔書  
と倫理的  
的研究

けられてる所である。此れ等二つは共に大切なもので、共に多大の研究盡力を爲さねばならぬことであるが、自利のない利他は有り得べからざるこゝとて、利他の前には必らず自利がなければならぬのみか、自利其物は既に間接な利他となる譯であるから、吾人は先づ如何にすれば自己の人格の完全が得られるであらうかを心配しなければならぬ。其れ故此れから主として品性修養法に就て一二の注意を述べる積である。

凡そ修養には目的と手段とがある。而して手段といふものは、何事に限らず千差萬別であることは今更言を待たぬ次第であるが、目的に就ても亦た大小深淺種々の説き方がある。先づ一般日本國民の修養の目的は何ぞやと云へば、其れは明らかに教育勅語にお示しになつてあるし、近くは又た戊申詔書を賜はつて、臣民は一層聖旨の存する所を詳にしたので、實に此れこそ吾人修養の目的なのである。が併し忠とは何を意味し、孝とは何を意味し、忠實勤勉とは何を意味するかの一段となると、眞正の解釋は容易でな

い。何うすれば真正の解釋が得られるか。古義を釋ねるも一方であらう、歴史を調べるも一方であらう。心理學者も社會學者も法律學者政治學者も之れに發言の權利を有つて居るであらう。其れ等の中で果して何人が最も權威ある正當の解釋を得るであらうか。而して其の正當の正當たる所以は何處にあるであらうかと詮索し行けば、事端は次第に紛糾錯雜になつて來る。常識は容易に之れを裁斷することが出來ない。ソコデ倫理學は一切這般の問題を整頓して、兎にも角にも相當な合理的解決を與へんとするもので、其の論議は一見抽象的で、實際に迂いやうであるが歸する所は最も精確に人生の目的を指示せんとするにある。忠でも孝でも、忠實でも勤勉でも、倫理學的基礎を得て始めて適切精確と言はれる所以、修養の目的は倫理學的に論定されると云つても、差支ない譯である。言はゞ、勅語と詔書とは目的の大綱を示されたもので、其委細を明らかにする爲めには、道德の理論及び其の應用を研究せねばならぬ譯である。其れ故以上論述

した一切は、皆な『人のかくあらねばならぬ』である限り、修養の目的論と見做すべきである。其の一々の部分を、勅語詔書の諸徳の各々に配當することは讀者にお任せ申して、特更ら此所に細論するに及ぶまい。聖旨は眞に深遠であるから、或は人々によつて多少の異解を來すことも無いではなからうが、左迄の困難はないこと、信ずる。が、特に著るしい一致點あるとを一言して置きたい。詔書に所謂華ヲ去リ實ニ就キ、荒台相誠シメ、自疆息マザルベシのお教は、殆んど吾人の所謂道德主義其儘と解して、差支なからうと思はれる。華とは即ち内實のない精神のない所の浮薄の結果主義であつて、實とは即ち精神主義意志主義で、一種の知行合一説に外ならぬと拜察される。又た荒台相誠しめと自疆不息とは、同一事を表裏から説明されたもので、消極的に荒台を誠しめられ、積極的に自疆を勸説せられたので、此は是れ全く活動主義、完全主義と拜察せられるのである。余は此れ迄の著述數種に於て、既に生々主義、或は自疆不息主義の名を以て此の完全主義活動主



義を呼んだことがある。生々とは易の別名で活動して息まぬことをいふので、詰り自彊不息と同じ趣意である。眞に人生の目的は自彊不息である。或る目的地に到達しなへすれば、其れで満足休止するやうな處世振りは、決して人間の眞面目を發揮する所以でない。目的を立て、は之れを實現し、實現しては更に新らたに目的を立て、向上進歩する所に、人と生れた甲斐がある、意義内容ある快樂がある。自彊とは正大な意力の遂行で、其の綿々として絶へざる所に至善あり、救済あり、解脱ありと言ふべきである。而して此の一義は徒の有情物の遂に感じ能はざる所、徒の知者の遂に知る能はざる所、日本國民の發展、國運の振興舉て皆な之れに繋ることであらうと思はれる。言はゞ諸徳中の徳、諸義務中の義務は自彊不息であつて、吾人が諸種の道德主義を批評的に吟味して最後に到達した所の完全主義活動主義は方に之れてあることを思ひ合せて、衷心の喜を禁じ能はぬのである。して見れば、修養の目的は畢竟詔書の御趣意から言ふても、上に述べた所と

禪師的修養

同じと言つて可い筈である。手段は目的次第で違ふとは勿論である。従つて道德主義に種々の相異があるだけ、それだけ幾分づゝ修養法も違ふ譯である。一々之を論ずる必要はないが、日本在來の教と吾人今日の教とを比較するに都合可い一例を擧げて見やうと思ふ。其れは出世間教と世間教の修養法の相異である。余は穴勝出世間教を拒けはしないが、人は必ず先づ世間教に依らねばならぬと説いた。説の可否は暫らく措いて、其の修養法に及ぼす關係如何を明らかにする爲め、此所に具體的の一例を引いて見やう。或る宗教家は修養法の理想として禪宗の雲居禪師の如く無心なるやう勉めよといふ。雲居禪師とは其宗有名の善智識で、深く伊達政宗の歸依を受けて、松島の瑞巖寺の住職となつた人である。何んな事情理由であつたか知らぬか、或る時期に、禪師は毎夜十二時過ぎ、陸續さに行ける島——辨天島とか覺えて居る——の洞穴の中へ往つて坐禪をした。所が物數奇の村の若者が如何に悟

を開いた名僧でも驚かぬとはあるまい、一つ彼の老僧をビックリさせるも一興と考へた。兎や角と工夫して後漸く甘い思ひ付きが出た。鳥と陸とを通ずる細道の傍に一本の松があつて、其れが丁度よく曲つて道の上に倒れるやうになつて居る。若者は老僧の通る刻限を見計つて、其松の木の上に昇つて今や遅しと待つて居た。ヤガテ詭の如く老僧がやつて來た、木の下に來ると、若者は卒然禪師の圓頂を抑へた。キヤット驚くと思の外、何とも言はずジツト止まつた、何の風情もない。ソコデ寧ろ上の若者こそ面喰つた體で、抑へた手を離した。振り返つて見る位はするであらうと思の外、又何の風情もなく行き過ぎて了つた。若者は再び面喰つた。成る程名僧は少し常人と違ふワイと感心したが、實はまだ多少は驚いて居るであらうと思つて、明朝勿速禪師を訪れて、お和尚様、近頃此の邊へは毎晩天狗のやうな怪物が出るといふ風聞ですが、アナタも聞きになりましたかと問ふた。和尚は「イヤ愚老は一向聞かん」と答へた。「イヤ其れでも昨夜晩く、現に和尚さ

んが天狗に頭を抑へられたと言ふてはありませんか。ア、成る程愚老は頭を抑へられたが、彼れは決して天狗などではない。深夜などに人の頭を抑へるなんて、天狗でもなければ爲ないことではありませんか。イヤ天狗ぢやない、彼れは村の若者だ。何うしてアナタ若者といふことが分りますか。左様抑へた手が人の手で、然もフツクリして居て、温たかだつたから、若者に相異ない、若者がイタヅラを爲たのだと圖星を指されて仕舞つた。ソコデ若者は始めて名僧のエライことを知つて、平伏して自己の罪を謝したといふ。

今雲居禪師が物に驚かないで、却つてよく物の真相を看破することが出來たのは、畢竟無心無我であるからである。無心無我の心は、恰も明鏡の如きもので、己れ自身には何等の影も形もない。何等の影も形もないが爲めに、よく其の前に現はれる萬物を、其の有りの儘に寫すことが出來る、花が來れば紅に、柳が來れば綠に、愛すべきは愛すべく、惡むべきは惡むべく、寫し出

心源存養法

す。雲居禪師の心も此の明鏡であつたから、抑へたから、即ち止まれと云はれたから止まり、離されたから即ち行けと云はれたから行つた。若者が觸れたから、若者と判ずることが出来たのである。無心無我は無情無慾のこゝとて、人よく無情無慾であれば、皆雲居禪師のやうに、何者に遇つても、何事に處するにも各宜を得ざることはないといふのが出世間派の勸める修養法である。又た朱子學などでも一面此やうなことを説く。駿台雜話の中の飛彈山の天狗の話は方に此れである。

北國にいやしき工の飛彈山にゆきて杉を採て、へぎて生業とする者ありき。ある時山中に杉をへぎて居けるに、ひとりの山伏の鼻の隆きが來りしを見て、心に不思議のものかな天狗にやとおもふに、汝は何とて我を天狗とおもふぞといふ。はや、去れがしと思ふに、汝はなど我をいとひて、去れがしとおもふぞといふ。何にても心におもへば、はや知りてとがむる程に、後は是非なく、そのへぎし板のながくはへたるを縮撓めて、繩して括

らんとしけるに、心ならず取はづして、板はぬける程に、其板の末天狗の鼻にしたゝかにあたりしかば、汝は心根の知れぬものかな、恐ろしとて行さりぬるとぞ。板のはぬけるは思慮より出でざる事なれば、こゝには天狗も及ばぬにこそ。是にて知るべし、念慮なき所は鬼神も窺ひ得ざるになんありける。常人多く心に閑思雜慮常に絶る事なく、何事も思慮作爲の中より出る程に、氣にひかれ物に奪はれて、我といふ物自立する事能はず。されば此の我を失はじとならば、心源存養の工夫を爲すべし。心源存養の工夫は私欲なきを本とす。

天狗の話は事實如何であらうか、鳩巢自身も怪んで居るのであるが併し之れを假りて心源の存養を面白く説明したものである。心源といふは、中庸の「未發の中」で、何とも角とも言ひ得ない所の「大我」即ち「無體の體」をいふので朱子學の根本理想である。之れを失はぬやうするが、其の派の修養法の第一義であつて、之れを「居敬」の工夫といふ。而して其の手段が一に私欲を

古今修養法の異同

滅ぼすにありとすること、禪家などで説く所と殆んど同じやうに見える。扱此れ等の修養法は吾人の修養法と比較してどうあらうか。彼等の理想目的は經驗を超越した出世間にある無心の境にある。ソレデ其所へ達する手段は一に私欲を去るにありと説く。成る程雲居禪師の<sup>ソレ</sup>出會つたやうな場合に彼のやうな所置に出ることは吾人から云つても望ましいことに相違ないのみか、人生多くの場合に於て事を誤まるは感情情慾の發作によるので、心の有様を平靜に保つて行くとは最も肝要なことである。お醫者の診察室、學者の書齋、判事の裁判所、學生の試験場、交渉談判の<sup>際</sup>、作事執業の時など何れも沈著を缺いては成功を收めることは出来ない。之れに反して成功の跡を見れば、殆んど皆平靜沈著の相が見える。名文名詩の形容に、斧鑿の痕なしとか、天衣無縫とか、美妙な文字の形容に、運筆自在とか、自然とか、動作の輕妙には圓轉滑脱とか、樂にやつてのけるとかいふは皆此れである。して見ると、勿論吾人は私欲を絶つて無我無心にならなけ

ればならぬ。吾人のと在來の修養法との間には、一致點がある。が併し、同時に又、相異があるといふは外ではない。彼れ等は何がなしに、一概に、無我無心といふけれども、吾人は某の事某の時を限つての無我無心を主張する。即ち吾人は世間即ち經驗界に一定の理想目的を有して居る。此の理想目的を實現するに必要な限り、無我無心なるべきで、其れ以外は別に望みもせず、又た望んだ所が無益であるといふ。言はゞ彼れ等は抽象的の無我無心、吾人の具體的の無我無心である。前者は一種の空想で、此の人間共には逆も實行することの出来ぬもの、後者は勉めれば及ぶことの出来るものである。雲居禪師の如き超凡の名僧は、先づ大抵のことでは驚かぬことも出来やうが、其れでも平生修養を積みぬ事件、例へば旅順攻撃に用ゐた十幾時砲などが、幾發も鳴り響いて、其れこそ眞に百雷が一時に轟いて、心は兎も角も物質的に身體其物の各細胞が、非常の速度で震動される時などは、怪しいものであらうと思はれる。況んや普通の人であつて見れば、其れ程

でない時でも平靜に沈著にと思ひながらも、ツイ驚いたり恐れたり怒つたり、七情交も起り來つて殆んど止め度があるまい。其れは未だ私欲の有る爲め、修養の足りない爲めだと言つても、人間生ある間は善かれ悪かれ感情情慾を全滅することは出來ぬ以上、已むを得ない譯で、寧ろ出來ない相談を持ちかける方が無理なのである。

特に鵜の眞似をする鳥は水を飲むといふが、下手をやると、抽象的の無我無心の修養に志せば飛んだ出來損ひを拵へて仕舞ふ弊がある。といふは、感情情慾を絶たうとして絶てず、絶てないが絶たうとする此の心の働は、イヤに人の心をコヂらせイヂケさせて、冷もせず熱しもせず進むこともせず、退くこともせぬといふ有耶無耶な不得要領の情態に陥らされる。此は天氣で云へば降りみ降らずみ、ジメジメした五月雨の季節である。降るならドント降り照るならウント照るのは氣持がよいが、梅雨は眞に鬱陶しい。梅雨のやうな人間が世の中に居る様を見ると、何事にも兎角冷澁で、血がな

出世間的修養の陥る弊

い涙がない、妙に高く止まつて、我れ等は貴様達とは類が違ふと言つたやうな顔をして、其の癖人の見て居ない、知れそうもない所へ來ると人一倍酒も飲む色も漁る、勿論金錢にもこがれて居る、宛も人前で強て偽善を装ふて居た忍耐の埋め合せでもするかのやうである。世にも見悪い、イケ好かない癖に障るものは此の輩ではないか。元來人は悪まれるは嫌ひで愛せられるは嬉しい。けれども普通の場合、心で悪んで口で斗り愛せられるよりも、寧ろ愛せられない方が増した。悪いことは眞面目に悪いと言つて貰つて、其の代り嘉いことは眞面目に嘉いと賞められたい。反對なら眞面目に反對して、其の代り賛成なら眞面目に賛成して貰いたい。好きなら好き、嫌いなら嫌い、喜ぶなら喜ぶ、愛ふるなら愛ふる、何でも眞面目が可い。其れを何ぞや、好くやうな好かぬやうな喜ぶやうな愛ふるやうな賛成のやうな反對のやうな爲體の分らない態度を取るとは、卑怯ではないか、無氣力ではないか、不親切ではないか。尤も人は必ずしも毎に表裏を一にするといふ譯

には往かぬ。更に大なる目的を控へて、其の爲めに必要なことであれば、己むを得ずトボケもし、不正直も言はねばならぬこともあるが、此れは決して常道ではない。正大の目的を害さない限に於ては、喜怒哀樂は天真爛漫が可い。愉快なら快く笑ふが可い、悲しければ泣くが可い、言ひたくば言ふが可い、動きたければ動くが可い。誰れに遠慮も入らぬことである、詰り左様することが自己にも快く他人にも快いからである。之れに反して、例の不得要領は自分にも痛く、他人にも不愉快を與へて、人生をメチャクに破壊して了ふ仕方である。而して此の弊は何處から來たかと云へば當て度もなく唯だ私欲を罪して、漠然たる無我無心といふ闇黒界に飛び入らうとする心得違からのことである。

具體的の無我無心に志すといふは、一定の理想目的を立て、之れに差支ある感情情慾は惜し氣もなくキツパリ絶ち去るが、必要もないに漫りに情を矯めない。お醫者は醫業を完全に行ふ爲めに、學者は眞理を研究する爲

事上磨練

めに、文學家藝術家はた農工商業家は又た其れくの業務を完全に行ふ爲めに、人により時によつて種々の感情情慾の故障に出逢ふであらうが、其れ等は容赦なく征伐して仕舞はねばならぬ。當て度もなしに一般に私欲斷滅とは云はぬ。而して此時の心持は苦しくて、堪へられぬといふのではない、寧ろ此くして自我がヨリ大なる自我となるのだといふ張合がある。多年一日遂に我が熱望せる目的地に到着し得るのだといふ好望がある。其れ故イヂケない、コヂレない。始めの中こそ随分克己節制の努力が入るけれども、一度二度、十度百度慣れるに従つて、意志力は次第に強く、有害な感情情慾は次第に弱くなつて、遂に平靜沈著の情態を得るやうになる。言ひ換れば、彼の雲居禪師のやうな平靜は抽象的な無我無心を心掛けて得られるのではなくて、一事一物に就て、必要に應じて、長年の實習を積んだ結果として生じ來るものであるといふのである。前に徳の條下で論じたやうに、此の種の平靜は割合に融通がきかぬといふ不利な點を有つて居て、診察に

際しては平靜であり得ても、妻君との應對には存外肝癢を起す。醫者もあり、書畫を書く時は落着き拂つて立派のものを作るが、坐作進退は兎角セツカチの墨客もある。中々一氣に萬全は期せられない、一つ卒業して又た一つ先づ主として其の本業を執る上に修養を積んで、更に相當の程度迄社會各方面の要求に應ずることが出来れば、始めて可也の人と許せるのである。社會各方面の要求と云へば此れも漠然らしいが、實は主義論及び其應用論で大體述べたやうのことを云ふのである。何といふても、人世は複雑で之れを領解することさへ六かしい。況んや其の複雑な世の中に順應する習慣を得るは、決して易々たる事業ではない。而して世の中が文明に進めば進む程教育修養に手間取れて、今日文明世界の程度では、家庭學校を通じて二十年以上もかゝらうといふもの、尙ほ其中の劣敗者の列に落ちず、優勝者にならうといふには、其れこそ一生涯を通じて修養を怠つてはならぬ譯である。考へ方によつては、随分面倒至極のやうであるが、之れを面倒と思ふ

やうでは到底見込がない、寧ろ幾多の煩勞に堪へて奮戰苦闘をも半ばは樂しと思ふ種族が最後の勝利者となるのである。ソコデ結局吾人の修養法は、何等の奇策なく、たゞモウ正大の目的を立て、誠實熱心に、平凡な地道を踏んで次第に向上進歩せよといふことになる。古來東洋學者の中から例を取つて見れば、遣り口は一寸朱子學派に似て居るが、實は陽明の事上磨練といふ實習を重んずる趣意と一致する。陽明學にも幾多の曖昧の點批難の點もあるが、此の修養法は極めて適切と思ふ。傳習錄の下に此う言ふてある。

人須在事上磨練做工夫乃有益若只好靜遇事便亂終無長進那靜時功夫亦差似收斂而實放溺也

此は未だ事の無い時に、私欲なく無我無心とならうと試みて、大抵左様なり得たやうでも、實際の事に逢へば何にもならない。其れよりも、實際の事に逢ふ度ごとに、正しいことを爲るよう常に努力しなければならぬと云

つたもので、空に無心になれず、平生の實習で修養を積むより外に別に良法がないといふので、詰り品性修養の速成法はないもし下手に速成法を試みると例の不得要領などの病弊にかゝるやうになるといふのである。希臘のアリストートルが「人は建築の實習によつて建築家となり、絃樂の實習によつて絃樂師となると同じく、正義の行を爲すによつて正義となり、節制の行を爲すによつて節制を、勇敢の行を爲すによつて勇敢を全うするに至る」と言つたのも、面倒でも一つ一つの徳に就て實習を積まぬ限りは、道徳を身にするには出来ぬといふ上述の意味と同じものである。修養のこと眞に

士、不可以不弘毅、任重而道遠、仁以爲己任、不亦重乎、死而後已、不亦遠乎。である。

### 實踐倫理講話 (完)

明治四十三年九月五日印刷  
 明治四十三年九月十六日發行

實踐倫理講話與付

定價金一圓四十錢

不許複製

著者 中島徳造  
 發行者 森山章之丞  
 印刷者 青木弘  
東京市神田區表神保町二  
 牛込區市ヶ谷加賀町二丁目

發兌 東京市神田區表神保町二番地  
 電話本局特長四三七長一五三九  
 振替貯金口座東京第一三五番

同文館

大賣捌所 東京牛込區早稲大阪東區備後町東京神田大阪北區東韓國京城本町  
 田同文館支店寶文館東京堂梅田盛文館日韓書房

印刷所 東京市ヶ谷牛込區 株式會社 秀英第一工場



米國クラーク大學長  
 ジョン・スタンリー・ホール原著  
 文學博士 元良勇次郎  
 中島力造  
 文學士 青木宗太郎  
 水田四先生共譯

## 青年期の研究

上製全一冊  
 定價金貳圓  
 郵稅十二錢

### 最近刊發

世間兒童研究の士決して尠ならず、兒童に關する著述亦尠なきにあらず。されども人身の危機とも稱すべきは少年期よりも青年期となす、少年期を脱して青年期に入る男女の身心状態を系統的に研究するは此種の研究中最も緊急のものに屬す。されども此種研究の公表されたるものは我國は固より歐米諸國に於ても極めて稀にしてスタンリー・ホルの大著「青年期」は是が唯一の「オリソリチー」たり詳かに青年期にある男女の心身の發達及變化を記述し以て如何なる意味に於て人生の危機たるを説明し併せて之に對する教育上の性急に論及せるものなり。譯者は何れも學識に於て經驗に於て斯道の泰斗として定評あるの士なりこれ等の士が最も忠實に最も簡約に譯述したれば子女の教養に志あるの士は勿論教育家諸君の一讀を望むや切なり

東京神田同文館發行 表神保町

### 教育叢書

文學博士  
 遠藤隆吉  
 先生著

## 社會學講話

クロース製全一冊  
 定價金一圓七十錢  
 郵稅金八錢

文學士  
 吉田靜致  
 先生著

## 倫理學講話

クロース製全一冊  
 定價金一圓  
 郵稅金八錢

本書は斯學に造詣深き著者が最近の研究にもとづき主として教育者の參考に資せんが爲めに著はされたるもの社會學の沿革とその學說大要を詳述しこれが教育上如何なる關係を有するかを明かにし進んで其研究法の一斑を記されたり尙ほ現世にかしましき眞髓をも穩健なる見地に立ちて批評されたり。教育家は社會學の素養なからざる可からず教育家は社會を構成する分子たる國民を教養するものなれば此の活動場裡の社會を攻究するは當然の事なり、されば新進教育家は奮て本書を求めて參考の資となさざるべからず

人格の如何なるものなるかを知らずして、人の行動を評價し品性の修養を論ぜんとするは基礎を置かずして家を建設せんとするが如きものなり。本書は著者の懐ける人格觀を敘述せしものにして、倫理研究の基礎を定めんとするにあり。其内容の項目は倫理學及哲學、唯心論、絕對的唯心論、人格的唯心論、自己意識、自己活動、自己現實、等に分ち先生得意の口述體にて最も流暢に論述せられたり。

東京神田同文館 表神保町



心理學通俗  
講話會編纂

# 心理學通俗講話

以下  
續刊

第一輯 洋裝全一冊 定價金參拾五錢 郵稅六錢  
第二輯 洋裝全一冊 定價金四拾錢 郵稅六錢

世の中がだん／＼進んで總てのものが複雑に成るに従ひ心理學の研究は益々必要になつて一寸着物を一着拵へるのにも心理學上より割出す様になつたこの書は心理學の泰斗たる福來博士を初めこの道に詳しい諸先生が心理學觀察を最も平易に述べられたるもので誰でも面白く讀まるゝ様に出來て居る

開會の辭	文學博士 元良勇次郎	意志の修養	文學博士 元良勇次郎
着物の色の話	文學士 菅原教造	眼の誤りの話	文學士 上野陽一
返事の早いと遅い	文學士 大槻快尊	無言の教育	文學士 野上俊夫
子供の嘘言	文學士 介橋惣三	表情の話(顔つきと身振)	文學士 桑田芳藏
日本の舞踊と美容と	文學士 田邊尚雄	陰曆に就いて	文學士 大槻快尊
に就いて	高島平三郎	未開人種製作品の意	理學博士 坪井正五郎
嫁と姑	文學博士 福來友吉		
フランセットの話			

東京神田同文館發行 表神保町

米國ホルン博士原著  
谷本博士校閱  
佐藤藤太先生譯

# 教育哲學

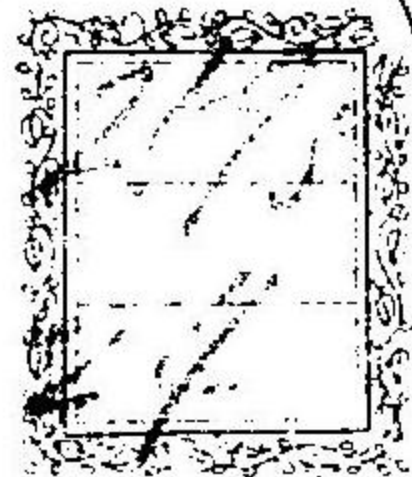
クロース製全一冊  
定價金壹圓貳拾錢  
郵稅拾貳錢

人或は教育教授の學を目して千篇一律の學となす蓋し誤れり斯の學も亦日就し月博すると敢て他の諸科學に譲らざるなり請ふ教育學の歴史に載する所を見よその理想に於て將又その方法に於て古來幾變遷ありこれ蓋し時代の思潮に伴ふもの特に世界觀人生觀の變遷の影響に俟つ者尠からず近時斯の學は復々一變せんとなす將來の教育學は蓋し一個のXたるを免れずと雖もその基礎一層廣潤たるべくして尙ほ且つ生命あり活氣ある者たらんことを需むべきは疑なし本書は廣くその基礎を生物學、生理學、社會學、心理學に求めて縱橫論議、最後に教育の哲學を論じて全篇を結び蓋し將來の教育學の急先鋒たるものか原著者は少壯の新進學者にして行文活氣に充ちて生命あり譯文亦た流麗加ふるに谷本博士の正斧を経て益々その光彩を放てり新思潮に伴ふ新教育の本義を知らんとするものは須らく本書に就け

最新刊發賣

東京神田同文館發行 表神保町







Ⓜ

009859-000-3

259.5-24

実践倫理講話

中島 徳蔵 / 著

M43

AAE-0967



